

石川県立津幡<sup>つばた</sup>高校<sup>とぎ</sup>朱鷺サポート隊からの千羽トキ贈呈について

新潟県佐渡島で進められているトキの野生復帰事業では、今年初めて野生3世となるトキが誕生し、その親の一方は出雲市生まれのトキでした。

出雲市と同様に、トキの分散飼育に取り組む石川県の県立津幡高等学校には『朱鷺サポート隊』が結成されており、様々な支援活動が行われています。

今回、野生下3世として誕生したヒナの成長を祈り、千羽トキと応援の手紙を贈呈いただきました。

津幡高校朱鷺サポート隊は、平成20年に結成され、ドジョウの養殖、ビオトープづくり、トキの折り紙千羽トキづくりなどの活動をはじめ、東日本大震災の被災地にトキメキカードを送るなど、様々なボランティア活動を展開されています。(別添資料)

出雲市のトキ保護増殖事業に対し県外の高校生からも応援いただいたことに感謝するとともに、これをご縁に分散飼育地同士の交流をさらに深めたいと思っています。

1. 受領日 平成26年6月7日(土)
2. 送り主 石川県立津幡高校朱鷺サポート隊(約20名)  
連絡先: 松井元雄教諭 TEL.076-289-4111
3. 贈呈品 ・千羽トキ(千羽鶴の様に折り紙で折ったトキ)  
・手紙
4. 市の対応 ・市長から礼状(ミコトッキーステッカー、大好き出雲バッジ、縁結びグッズをプレゼント)  
・千羽トキ及び活動内容を出雲市トキ学習コーナー学習棟で展示、紹介
5. 分散飼育地間の交流実績  
平成23年度 佐渡市長がトキ学習コーナーオープン式典に出席  
佐渡市からトキ分散飼育本格実施祝賀会に出席  
平成24年度 いしかわ動物園から見学受け入れ  
NPO 日本中国朱鷺保護協会(石川県)の絵画展に市内小学校から応募  
出雲市職員が長岡市分散飼育センターを見学  
副市長が佐渡トキふれあい施設オープン式典に出席  
平成25年度 いしかわ動物園から見学受け入れ  
長岡市トキ分散飼育センターから見学受け入れ
6. 問合せ先 出雲市トキ分散飼育センター  
担当 江戸、浅津 TEL.20-1350

# ふるさと石川の『朱鷺の里』づくり

～トキと人とは共に暮らせる里山の再生をめざして～

石川県立津幡高等学校 朱鷺サポート隊

## 1. 活動の経過と概要

朱鷺サポート隊は、平成20年11月に総合学科花と緑系列（主に農業教科を学ぶ系列）の2・3年生と有志で結成されました。以降、ドジョウの養殖をはじめ、トキや野鳥の餌場となるビオトープ造り、トキの折り紙“千羽トキ”作り、トキの写真と押し花をポストカードに飾る“トキメキカード”作りを行ってきました。また、佐渡島（新潟県佐渡市）での学習と棚田の保全活動や、いしかわ動物園でのイベント、いしかわ環境フェア・里山里海展への協力など多種多様な活動に取り組んできました。さらに、未曾有の被害をもたらした平成23年3月11日の東日本大震災の発生後は、福島県南相馬市鹿島区を拠点に現地での被災地支援ボランティアにも取り組み、その活動の幅を広げています。

サポート隊の最終目的は、石川の空へもう一度トキを飛ばすこと、そして、そのトキと人とは共に暮らせる「朱鷺の里」をつくることです。しかし、この実現には長い時間がかかるため、当面の目標を設定して活動に取り組んでいます。私たちは、今年度は「多くの人にトキへの関心を高めてもらう」ことを重点目標とし、様々な機会、場所で啓発・交流活動を行いました。

## 2. 私たちが取り組んだおもな活動

(1) いしかわ動物園のトキに提供するドジョウに加えて、平成25年度からはホンモロコの養殖も開始しました。



ドジョウ養殖田の管理作業



ドジョウの捕獲作業



ホンモロコの養殖も開始

(2) 平成25年度に、トキの健康と自然繁殖を祈願して“千羽トキ”を3施設に贈呈しました。



トキの折り紙“千羽トキ”作り



佐渡トキふれあいプラザに展示



いしかわ動物園へも贈呈

(3) 小学校や保育園などで、自作の紙芝居「はばたけトキ」の上演と啓発・交流活動を行いました。



井上保育園での啓発活動



とき保育園での啓発活動



佐渡市立小木小学校での交流活動

(4) 平成25年度も、石川県のイベント「いしかわ環境フェア・里山里海展」へ協力・参加し、好評を博しました。(平成22年度以降、継続しています)



ビオトープが一番人気



里山の生きものクイズに挑戦



ドジョウすくいも大盛況

(5) 東日本大震災被災地への支援・ボランティア活動に取り組み、被災地のみなさんに喜んでもらいました。



南相馬市立鹿島幼稚園でポン菓子製造



千倉応急仮設住宅で慰問活動



励ましのトキメキカードは2千枚超

### 3. 平成25年度の活動の重点

私たちの活動は多種多様なものとなっていますが、平成25年度は、次のことを重点に取組を進めることにしました。

#### (1) 自作の紙芝居「はばたけトキ」の作成と上演・啓発活動

私たちは、トキへの関心を高めてもらうための啓発・交流活動として、保育園や幼稚園、小学校、学童保育などで“トキメキカード”や“千羽トキ”作りを行ってきました。また、松ぼっくり・ドングリ工作などの活動も行い、取り組みを楽しみながらトキへの理解を深めてもらっています。そして、この活動をさらに進展させるために、トキの紙芝居を作成することにしました。

紙芝居作りは、5月の下旬からスタートしました。作成には、「いしかわトキ能里の会」



代表の岡本さんと「日本中国朱鷺保護協会」に協力をお願いしたところ、快く引き受けていただきました。紙芝居に使う原画は、日本中国朱鷺保護協会からお借りしました。

使用する原画を選ぶのが難しく、また、私たちの考えと岡本さんの思いが合わないことが何回かありました。そのため、なかなかストーリーがまとまらず、作業日程が遅れるなどずいぶん苦労しました。結局、岡本さんには5回も学校に来てもらうことになりましたが、タイムリミットの夏休み間にやっと完成しました。

紙芝居のタイトルは「はばたけトキ」にしました。完成した紙芝居は、7月22日の佐渡トキ研修会の際に、佐渡市立小木小学校4年生との交流活動でさっそく上演しました。以降、羽咋市の「とき保育園」や石川県のイベント「環境フェア・里山里海展」などで上演し活用しています。



原画選び



内容の検討



照らし合わせ



仕上げ作業



佐渡市立小木小学校で



羽咋市とき保育園で

## (2) 福島県での被災地支援活動の取組

平成23年3月11日の東日本大震災の発生後、先輩達は一過性の活動ではなく、自分たちにできる、そして、継続した支援活動として、被災地へ届ける励ましのメッセージカード（トキメキカード）作りに取り組んできました。

トキは、古来より「幸せをよぶ鳥」といわれています。トキの写真と私たちが作った押し花をポストカードに飾りつけ、励ましのメッセージを添えてもらうこの取組には、被災者への応援を行いながら、同時にトキのことも知ってもらうという狙いが込められています。私たちは先輩の意志を引き継ぎ、学校の内外に協力を呼びかけて取組の輪を広げました。その結果、昨年度は目標を上回る1,120枚のカードを被災地に届けることができました。そして、励ましのカード作りからスタートした支援活動は、その後、現地での支援活動へと進展しました。

石川県では、『幸せをよぶ鳥』と言われているトキの復活と自然環境を守る取り組みが広がっています。トキの復活と共に東日本の皆様にもトキが幸せを選んで来ますように祈っています。



幸せをよぶ「トキメキカード」



会津若松市みどり公園仮設住宅



南相馬市立鹿島幼稚園

平成24年の12月、私たちは「河北潟の水辺を守り隊」の人たちと連携して、初めて現地での支援活動に取り組みました。また、25年の4月に「JA 石川かほく」と「市谷営農組合」と連携して2回目の支援活動に取り組み、さらに、11月には4月同様「JA 石川かほく」と「市谷営農組合」、そして、新しく「八ノ谷営農組合」とも連携して3回目の支援活動を行うことができました。

被災地では、仮設住宅をはじめ小・中学校や幼稚園への支援物資の配付や、様々な取組を行い楽しんでもらいました。支援物資の中でたくさんの人に喜んでもらったのが、ポップコーンと「福」「幸」の文字と「トキの絵」が入ったりんご“トキメキりんご”でした。

ポップコーンは、私たちの学校の農場で、町内の小学校や幼稚園、保育園の子どもたちと一緒に育て収穫したものの半分をいただき、被災地の小学校と幼稚園に届けました。また、トキメキりんごは羽咋市鹿島路の松生リンゴ園の協力を得て作成し、仮設住宅に届けました。特に、福と幸のりんごは並べると「復興」の掛詞となり、多くの人に喜んでもらいました。“トキメキりんご”は、次のような作業を行い作成しました。



シール貼り



仕分け作業



完成

#### 4. 活動の成果と今後の取組

私たちは、幼稚園や小学校での啓発・交流活動や被災地支援活動を行う中で、「ありがとう」の言葉をたくさんいただきました。そして、同時に「こちらこそありがとう」の言葉を返してきました。人と人との出会いの中で、感謝の言葉と笑顔、温かさを交えることができ、そのことが明日へのエネルギーになりました。このような体験が心地よくて、「ボランティアっていいな」と思うようになりました。また、自分の行いが、社会や人のために役に立っているということが実感できて、本当に充実した高校生活が送れています。

活動が続くと「疲れた」とか、「めんどくさい」、「もういや!」といった言葉を漏らしてしまうこともありますが、私たちは、禁句にすることにしました。なぜなら、私たちの活動は多くの人たちの賛同を得て、そして、多くの人たちの思いと協力があって成り立っていることがわかったからです。“千羽トキ”や“トキメキカード”は、何百人ものたくさんの人たちの協力があって、佐渡島や東日本の被災された方々へ届けることができました。私たちは、この気持ちを忘れずにこれからも活動を続けていきたいと思っています。

朱鷺サポート隊の活動は、新聞でたびたび紹介されました。このことで、多くの県民がトキや自然保護について、また、被災地支援活動について関心を高めるよい機会になったと思います。

サポート隊の当面の活動目標は、トキ保護に関する啓発と交流活動です。私たちはこれまでの活動を通して様々な人達と出会い活動を広めて、次のような『トキの輪』を築いてきましたが、今後とも、全国のあらゆる機会と場所で、トキへの関心を高めてもらうための取組を続けていきたいと考えています。このことが、ふるさと石川の『朱鷺の里』づく

りにつながることを信じて！

